

大学機関別選択評価

# 自己評価書

平成28年6月

九州歯科大学



## 目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択評価事項B 地域貢献活動の状況	4



## I 大学の現況及び特徴

### 1 現況

(1) 大学名 九州歯科大学

(2) 所在地 福岡県北九州市

#### (3) 学部等の構成

学部：歯学部（歯学科、口腔保健学科）

研究科：歯学研究科 附属研究所：なし

関連施設：附属病院、附属図書館、動物実験施設

#### (4) 学生数及び教員数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

学生数：学部 674 人 大学院 98 人

専任教員数：120 人

### 2 特徴

**【沿革】** 本学は大正 3 年 4 月に私立九州歯科医学校として開設され、昭和 24 年新制九州歯科大学に昇格（4 年制、定員 80 名）。昭和 41 年大学院歯学研究科開設。平成 18 年公立大学法人化し、新本館・新講堂棟竣工。平成 22 年 4 月口腔保健学科を開設。平成 26 年 5 月 10 日に創立百周年を迎えた我国唯一の公立歯学単科大学である。平成 26 年の創立百周年を機に次なる世紀に向けて新たな大学づくりに踏み出すにあたり、平成 27 年 10 月に「九州歯科大学憲章」を制定した。

**【理念】** 本学の基本理念は、高度な専門性を持った歯科医療人を育成し、地域医療の中核的役割を果たし、歯科医学を支える研究を推進することである。

**【教育】** 本学では基本理念と教育研究目標を達成するため、継続的に教育改革を図っている。従来の知識教育・技術教育に加え、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身につけるため、態度教育を柱とした教育を行うなかで、入学直後の宿泊研修を行っている。歯科医療人を志す歯学生・口腔保健学生としての意識向上とプロフェッショナリズムを涵養する目的で低学年から臨床体験実習や相互実習を実施している。さらにチーム医療の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の連携科目を低学年から開講している。また、国際的な社会貢献ができる人材を育成する目的で、夏季休暇期間中に両学科の学生数名に本学と連携協定を締結している海外の歯科大学・歯学部で講義・実習の見学ならびに国際交流を体験させている。

教育目標に応じ求める学生像を明確にしたアドミッションポリシーを定め、AO入試に加え、平成 22 年度か

ら一般入試においても面接を実施している。平成 27 年度からは、一般入試において理科を廃止し、論理的思考力などを総合的に評価する総合問題を導入している。更にカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定め、教育課程の編成・実施方針および学位授与の方針を明確にしている。歯学科では、リサーチマインドをもった歯科医師を育成するため、2 年次生で研究室配属を実施し、口腔保健学科では、歯科衛生士としてチーム医療の主要メンバーとして摂食支援等の専門医療に対応できる優れた口腔保健学士を育成するため、全身が分り栄養にも深く通じる教育カリキュラムが整えられている。

教育改革の一環として、教員の教育研究活動を活性化するため FD、個人業績評価制度、授業評価制度（学生と同僚によるものの 2 種類）、任期制度を継続している。個人業績評価結果は給与に反映されており、授業評価と個人業績評価の結果は教員個人へフィードバックして教育活動の活性化と改善に役立てている。

また、文部科学省補助金に応募し、申請校として 1 件、連携校として 4 件獲得し、学部改編に活かしている。

**【研究】** 第 2 期中期目標の「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究の推進」に沿った研究に対して重点的な研究費の配分を行っている。大学院歯学研究科は平成 26 年度に修士課程（口腔保健学）を設置した。

外部大型研究費の獲得を目指し、平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業に「地域連携による『ものづくり』継承支援人材育成協働プロジェクト」が採択され、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学との間で、大学院の単位互換協定を締結し、平成 26 年 4 月 1 日以降は 4 大学間で学生の相互受け入れが可能となった。

**【社会貢献】** 平成 27 年には文部科学省補助金事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC プラス）」に連携校として参加し、福岡県と協働で高齢者の QOL 支援に係る実践的教育や地元企業との連携による CCR C(Continuing Care Retirement Comity)ビジネス創生を推進している。

**【国際交流】** アジアを中心とした 11 歯科大学・歯学部と学術協定を結び、教職員や学生の交流のほか、留学生の受け入れを行っている。また、2013 年より年に一度 Asia-Pacific Conference in Fukuoka を開催し、連携校との学術情報交換を推進している。

## Ⅱ 目的

本学の目的は、平成 18 年 4 月 1 日に定められた九州歯科大学学則第 1 章総則（目的）第 1 条に規定されている。大学院の目的と修士課程および博士課程の目的は、九州歯科大学大学院学則第 1 章総則（目的）第 1 条と第 2 条に規定されている。大学の基本理念は教育、社会貢献、研究における学則の目的を実現するため、平成 14 年 10 月の評議教授会で「高度な専門性を持った歯科医療人の育成」、「地域医療の中核的役割を果たす」、「歯科医学を支える研究の推進」と定められた。

平成 23 年 12 月 20 日に福岡県議会で議決された公立大学法人九州歯科大学第Ⅱ期中期目標（中期目標期間；平成 24 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの 6 年間）の前文で、本学の使命を「歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを使命とする」と定めている。この第Ⅱ期中期目標において、

- ・ 地域の歯科保健医療活動に貢献する医療人を育成するための教育を推進する。
- ・ 特色ある地域歯科保健医療活動を展開し、地域社会に貢献する。
- ・ 専門性を備えた人材の確保・育成を測り、事務局機能を強化する。
- ・ 全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージを確固たるものにする。

の 4 つの取組を今期 6 年間の重点事項としている。

さらに、教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価および情報公開の各方面からこの 6 年間の目標が具体的に明示されている。また、この中期目標を実現するために中期計画が作成され、教育は、地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師および歯科衛生士の育成、特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成、教員の教育力の向上、適性のある優秀な人材の確保、学生への支援を、研究は、研究水準並びに研究成果の向上を、社会貢献は、地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施をそれぞれ計画項目に挙げている。

### 1) 九州歯科大学憲章

平成 27 年 10 月 1 日、九州歯科大学は新たに九州歯科大学憲章を制定し、次なる世代が歯科医療の発展に貢献できるような歯学教育研究を展開することとした。

#### ① 前文

平成 26 年の創立 100 周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療を提供できる人材の育成を第一義に掲げ、全人的歯科医学教育活動を展開します。

新たな大学づくりに踏み出すにあたり、ここに「九州歯科大学憲章」を掲げ、学生、教員、職員の 3 者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します。

#### ② 九州歯科大学の基本理念

高度な専門性を持った歯科医療人の育成

地域医療の中核的役割を果たす

歯科医学を支える研究の推進

#### ③ 教育研究目標

九州歯科大学は、基本理念の実現に向けて、以下のような教育・研究を行います。

- (1) プロフェッションとしての人間性、豊かな教養、専門知識および技能の備わった歯科医療人を育成する。
- (2) 科学的情報を正しく解釈し、根拠に基づいた歯科保健医療活動が行える人材を育成する。
- (3) 全身の健康という視点に立ち、いかなる社会構造の変化にも対応できる歯科医療人を育成する。
- (4) 多職種と連携し、歯科保健医療を通じて地域社会に貢献することができる歯科医療人を育成する。

- (5) 国際連携交流活動を強化し、国際的な視野に立って歯科保健医療活動が行える人材の育成を推進する。
- (6) 学際領域の学問分野と協働し、地域社会の発展に寄与するとともに、国際的な研究を展開する。

## 2) 公立大学法人九州歯科大学 中期目標（期間；平成24年4月1日から平成30年3月31日までの6年間）

### ① 教育

歯科保健医療の分野において活躍する優秀な歯科医療人を育成する。

- (1) 特色ある教育の展開
- (2) 教員の教育能力の向上
- (3) 意欲ある学生の確保
- (4) 学生支援の充実

### ② 研究

大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。

### ③ 社会貢献

大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。

### ④ 業務運営

理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。

### ⑤ 財務

経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。

### ⑥ 評価および情報公開

評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。

## 3) 九州歯科大学学則 第1章 総則

### （目的）

**第1条** 九州歯科大学（以下「本学」という。）は、広く知識を授けるとともに、深く歯学に関する専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって歯科医療及び口腔保健医療の発展と地域の福祉に寄与することを目的とする。

## 4) 九州歯科大学大学院学則 第1章 総則

### （趣旨及び目的）

**第1条** この学則は、九州歯科大学学則（平成18年4月1日法人規程第34号）第5条の規定に基づき、九州歯科大学大学院（以下「大学院」という。）の学生の修学に関し必要な事項を定めるものとする。

2 大学院は、歯学に関する学術の理論及び応用を研究教授し、その深奥を窮めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

### （課程）

**第2条** 大学院に修士の学位を与える課程（以下「修士課程」という。）及び博士の学位を与える課程（以下「博士課程」という。）を置く。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。

3 博士課程は、独創的研究によって従来の学術水準に新しい知見を加えるとともに、専攻分野に関し、研究を指導する能力を養うものとする。

### Ⅲ 選択評価事項B 地域貢献活動の状況

#### 1 選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」に係る目的

##### (1) 九州歯科大学の基本理念および大学の地域貢献活動の位置づけ

本学では、九州歯科大学憲章の中に基本理念として「地域医療の中核的役割を果たす」ことが掲げられ、また同憲章の教育研究目標に「多職種と連携し、歯科保健医療を通じて地域社会に貢献することができる歯科医療人を育成する」と定められている。また、学則の第1条（目的）には「地域の福祉に寄与すること」が明記されている。また、本学定款の第24条第4号では「公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること」を法人の業務範囲の一つとして規定し、学則の第40条には「学長は、公開講座等の機会を設け、本学に蓄積された歯科医学を教授し、もって地域社会の発展に寄与することができる。」と定めている。地域や社会全体に対する貢献は、本学の公立大学としての重要な役割の一つとして位置づけ、地域貢献に関係する様々な施策を実施している。

##### (2) 地域貢献に関する目的

地域貢献活動の目的については、本学の中期目標に沿った中期計画における「社会貢献」の中に実施事項・内容として下記のように具体的に記載されている。

- ・リカレント教育の充実

地域歯科医療に携わる歯科医療職に対して、セミナーの開催やe-learning等を通じたリカレント教育を展開する。

- ・他大学との社会貢献共同プログラムの実施及び研究成果等の地域への発信

県立三大学連携による社会貢献共同プログラムを実施する。市民公開講座等を通じて、地域住民に研究成果等の情報を広く発信する。

- ・地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動の実施

保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を実施する。公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施する。福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要なデータを提供する。

- ・地域における在宅療養高齢者に対する歯科保健医療サービスの提供

地域で在宅療養を行っている高齢者の口腔機能に着目して、摂食嚥下リハビリテーションなどの歯科保健医療サービスを提供する。

本学では、上記の目的を達成するために、(1) 公開講座、(2) 産学連携や4大学スクラム講座等の企業、他大学及び行政との連携、(3) 高校生を対象とした大学紹介（オープンキャンパス）、模擬講義、出前講義および高大連携教育等の実施、(4) e-learningシステムや病院研修登録制度等の、主として卒業生を対象としたリカレント教育、(5) 附属病院における歯科医師臨床研修に係る教育(6) 地域住民への健康増進啓発及び病診連携の実施、(7) 図書館、体育館及び講堂等の施設開放、(8) 地域貢献活動担当センター・寄附講座による活動、(9) 保育園、幼稚園、公民館、老人クラブへの訪問、(10) 在宅など施設への訪問診療の実施等に取り組んでいる。

なお、本学の地域貢献活動については、「公立大学法人九州歯科大学教育研究協議会」の意見を踏まえ、担当副学長が中心となり、計画から実施及び改善等を行っている。また、本学の自己評価を付した各年度の取組実績に対して「福岡県公立大学法人評価委員会」による評価を受け、その結果を基に改善を図っている。本学の各教員の社会貢献への関わりについても、個人業績評価の一部として位置付け、積極的な参加を促している。このように、地域貢献活動に関しては、目的に添った計画から実施、評価までを一体として進めている。

## 2 選択評価事項 B 「地域貢献活動の状況」の自己評価

### (1) 観点ごとの分析

観点 B—1—①：大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

#### 【観点到係る状況】

九州歯科大学憲章および本学学則において、地域社会や国際社会の発展に資することが定められている（資料 B—1—①—1, ①—2、別添資料 B—1—①—1, ①—2）。この目標を達成するため、本学の中期目標の一つの柱である「社会貢献」として「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する」ことが謳われ（別添資料 B—1—①—3）、具体的な内容が中期計画に示されている（前頁、中期計画における「社会貢献」の内容を参照）（別添資料 B—1—①—4）。

#### 資料 B—1—①—1 九州歯科大学憲章（抜粋）

#### 2. 九州歯科大学の基本理念

九州歯科大学の理念を以下のとおり定め、九州歯科大学がどのような人材の養成、社会貢献、研究活動を志すのかをここに明らかにします。

- ・ 高度な専門性を持った歯科医療人の育成
- ・ 地域医療の中核的役割を果たす
- ・ 歯科医学を支える研究の推進

#### 3. 教育研究目標

九州歯科大学は、基本理念の実現に向けて、以下のような教育・研究を行います。

1. プロフェッションとしての人間性、豊かな教養、専門知識および技能の備わった歯科医療人を育成する。
2. 科学的情報を正しく解釈し、根拠に基づいた歯科保健医療活動が行える人材を育成する。
3. 全身の健康という視点に立ち、いかなる社会構造の変化にも対応できる歯科医療人を育成する。
4. 多職種と連携し、歯科保健医療を通じて地域社会に貢献することができる歯科医療人を育成する。
5. 国際連携交流活動を強化し、国際的な視野に立って歯科保健医療活動が行える人材の育成を推進する。
6. 学際領域の学問分野と協働し、地域社会の発展に寄与するとともに、国際的な研究を展開する。

（出典：九州歯科大学憲章）

資料B—1—①—2 九州歯科大学学則（抜粋）

第1章 総則

第1条 九州歯科大学（以下「本学」という。）は、広く知識を授けるとともに、深く歯学に関する専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって歯科医療及び口腔保健医療の発展と地域の福祉に寄与することを目的とする。

第9章 公開講座等

第40条 学長は、公開講座等の機会を設け、本学に蓄積された歯科医学を教授し、もって地域社会の発展に寄与することができる。

（出典：九州歯科大学学則，

[https://www3.e-reikinet.jp/kyu-dent/dlw\\_reiki/41890230003400000000/41890230003400000000/41890230003400000000.html](https://www3.e-reikinet.jp/kyu-dent/dlw_reiki/41890230003400000000/41890230003400000000/41890230003400000000.html)）

さらに、この中期計画に示された施策に基づき、「公立大学法人九州歯科大学教育研究協議会」（以下、「教育研究協議会」と称する）の意見を聴取のうえ年度ごとの具体的な実施計画として年度計画が定められている（別添資料B—1—①—5～—9）。その主な内容は、（1）公開講座、（2）産学連携や4大学スクラム講座等の企業、他大学及び行政との連携、（3）高校生を対象とした大学紹介（オープンキャンパス）、模擬講義、出前講義および高大連携教育等の実施、（4）e-learning システムや病院研修登録制度等の、主として卒業生を対象としたリカレント教育、（5）附属病院における歯科医師臨床研修に係る教育、（6）地域住民への健康増進啓発及び病診連携の実施、（7）図書館、体育館及び講堂等の施設開放、（8）地域貢献活動担当センター・寄附講座による活動、（9）保育園、幼稚園、公民館、老人クラブへの訪問、（10）在宅など施設への訪問診療の実施等である。

これらの目標を達成するために、担当副学長が年度計画の進行状況や各種企画の実施状況等を基に、歯学部歯学科および口腔保健学科、大学院歯学研究科、附属病院等における地域貢献活動の改善や今後の展開等について取り組んでいる。さらに本学では、「北九州地区大学連携教育研究センター」、「オーラルバイオ研究センター」、「まちなかESDセンター」、「口腔保健・健康長寿推進センター」、「寄附講座（高齢者支援学）」の5つの地域貢献関連センター・寄附講座を編制し、これまでの取組の改善や新たな社会のニーズの掘り起こしを行い、地域社会への貢献を推し進めている。また、本学は公立大学としての存立意義を認識し、教員（助教1人）の派遣による人事交流等を通じた福岡県との連携強化に取組み、地域歯科医療支援の充実に努めてきた。さらには、地域の高校との連携教育（高大接続教育）を実施している。これらの取組の概要は、本学のホームページで公開されている（別添資料B—1—①—10）。

また、平成25年度に北九州地区4大学（九州歯科大学、産業医科大学、九州工業大学、北九州市立大学）間において単位互換協定を締結しており、他大学の大学院生も科目履修することが可能である（別添資料B—1—①—11）。さらに、外部からの見学要請の多い解剖については「解剖見学生受入規則」を定め（別添資料B—1—①—12）、医療技術者養成所や薬剤師会・医療関係団体等の学外者の見学を受入れている。施設関係では、図書館の一般市民への利用開放を初め（資料B—1—①—3）、その他会議室や講堂あるいは講義室等も「公立大学法人九州歯科大学学外者施設使用要綱」に基づいて開放し、学習の機会を提供している（別添資料B—1—①—13、7—1—③—1、7—1—①—3、7—1—①—4、7—1—②—1、7—1—④—2）。

## B-1-①-3 学外者への図書館の利用案内

九州歯科大学 図書館ウェブサイト

受験生の方へ 在学生の方へ 卒業生の方へ 保護者の方へ 一般・企業の方へ

大学案内 学部・大学院 入学案内 学生生活 教育連携 地域連携 研究・産学連携 国際交流

TOP / 別冊公開版 / 学外の方へ

### 学外の方へ

図書館トップ 印刷用ページ

九州歯科大学附属図書館は、図書館が所蔵している資料の利用を希望される方なら、どなたでも利用できます。

**図書館を利用する**

- ご利用案内
- フロアガイド
- 卒業生の方へ
- 学外の方へ
- グループ学習室
- 図書館だより

**調べる・探す**

- 図書館検索
- 図書館検索の利用方法
- データベース一覧
- 電子ジャーナル
- リンク集

**利用について**

所蔵資料の利用を希望される方なら、どなたでも利用できます。受験勉強のための目的などでの家庭用での利用はご遠慮ください。本学試験期間中は、利用を制限させていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

**利用の手続き**

入館の際はゲートがありますので、カウンターにお集まりください。カウンターで「図書館利用申込書」に記入し、「利用証」を受け取ってください。お借りの際は「利用証」を返却してください。

**利用できるサービス**

- 館内の図書・雑誌の閲覧（一部の資料を除く）
- 複写（セルフサービスです。）※著作権の範囲内でお願ひします。
- 図書館検索

(出典：九州歯科大学ホームページ, <http://www.kyu-dent.ac.jp/library/other>)

別添資料B-1-①-1 九州歯科大学憲章, <https://www.kyu-dent.ac.jp/about/charter>

別添資料B-1-①-2 九州歯科大学学則, [https://www3.e-reikinet.jp/kyu-dent/dlw\\_reiki/4189023003400000000/41890230003400000000/41890230003400000000.html](https://www3.e-reikinet.jp/kyu-dent/dlw_reiki/4189023003400000000/41890230003400000000/41890230003400000000.html)

別添資料B-1-①-3 公立大学法人九州歯科大学中期目標, [http://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/2ki\\_tyuukimokuhyo.pdf](http://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/2ki_tyuukimokuhyo.pdf)

別添資料B-1-①-4 公立大学法人九州歯科大学中期計画（抜粋）, [http://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/2ki\\_tyuukikeikaku.pdf](http://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/2ki_tyuukikeikaku.pdf)

別添資料B-1-①-5 公立大学法人九州歯科大学平成23年度年度計画（抜粋）, <http://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/23nendokeikaku.pdf>

別添資料B-1-①-6 公立大学法人九州歯科大学平成24年度年度計画（抜粋）, <http://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/24nendokeikaku.pdf>

別添資料B-1-①-7 公立大学法人九州歯科大学平成25年度年度計画（抜粋）, <http://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/25nendokeikaku.pdf>

別添資料B-1-①-8 公立大学法人九州歯科大学平成26年度年度計画（抜粋）, <http://www.kyu-dent.ac.jp/files/uploads/26nendokeikaku.pdf>

別添資料B-1-①-9 公立大学法人九州歯科大学平成27年度年度計画（抜粋）, <http://www.kyu-dent.ac.jp/files/uploads/27nendokeikaku.pdf>

別添資料B-1-①-10 ホームページ上の公開例

- ・一般・企業の方への案内, <http://www.kyu-dent.ac.jp/general/>
- ・公開講座の案内, <http://www.kyu-dent.ac.jp/area/public>
- ・高大連携教育, <http://www.kyu-dent.ac.jp/area/delivery>
- ・模擬講義, <http://www.kyu-dent.ac.jp/admissions/delivery>

- ・臨床研修センター, <http://www.kyu-dent.ac.jp/hospital/training/>
- ・他大学との連携, <http://www.kyu-dent.ac.jp/education/other>
- ・地域医療連携, <http://www.kyu-dent.ac.jp/hospital/area/>
- ・寄附講座の設置について, <http://www.kyu-dent.ac.jp/news/archives/143>

別添資料B—1—①—11 北九州地区4大学単位互換制度, <http://www.kyu-dent.ac.jp/education/credit>

別添資料B—1—①—12 公立大学法人九州歯科大学解剖見学生受入規則, [https://www3.e-reikinet.jp/kyu-dent/dlw\\_reiki/42190210000500000000/42190210000500000000/42190210000500000000.html](https://www3.e-reikinet.jp/kyu-dent/dlw_reiki/42190210000500000000/42190210000500000000/42190210000500000000.html)

別添資料B—1—①—13 公立大学法人九州歯科大学学外者施設使用要綱 (出典:事務局資料)

別添資料7—1—③—1 九州歯科大学施設利用案内「図書館」

別添資料7—1—①—3 九州歯科大学施設利用案内「体育・スポーツ関連施設」

別添資料7—1—①—4 九州歯科大学施設利用案内「動物実験施設」

別添資料7—1—②—1 九州歯科大学施設利用案内「コンピューター関連施設」

別添資料7—1—④—2 九州歯科大学施設利用案内「テュートリアル室」

#### 【分析結果とその根拠理由】

本学が保有する人材や技術・情報等を活用して、地域における積極的な地域貢献を果たすことは、本学の重要な使命の一つとして位置づけられている。目的を果たすための具体的な方針や施策は中期計画に定められ、さらに年度計画において各年度の実施計画が決められている。また、本学では地域貢献を効率的に実施するために5つの地域貢献関連センター・寄附講座を設置している。さらに、図書館をはじめ、会議室や講堂あるいは講義室等も一般市民に開放し、学習の機会を提供している。

これらの計画や事業内容は、学長から全学説明会を通して学内に周知徹底され、ホームページや各種媒体等で、一般に公表している。

以上のことから、大学の地域貢献活動の目的に照らして具体的な方針が定められ、これらが一般に周知されていると判断した。

#### 観点B—1—②: 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

##### 【観点に係る状況】

九州歯科大学憲章ならびに本学の学則や中期計画に基づいて、様々な地域貢献活動が実施されている。具体的な活動内容は次の通りである。(1) 公開講座(資料B—1—②—1)、(2) 産学連携や4大学スクラム講座(資料B—1—②—2, 別添資料B—1—②—1)等の企業、他大学及び行政との連携、(3) 高校生を対象とした大学紹介(オープンキャンパス)、模擬講義、出前講義および高大連携教育等の実施(資料B—1—②—3)、(4) e-learning システムや病院研修登録制度等の、主として卒業生を対象としたリカレント教育(資料B—1—②—4)、(5) 附属病院における歯科医師臨床研修に係る教育(資料B—1—②—5)、(6) 病診連携の実施(資料B—1—②—6)、(7) 図書館、体育館及び講堂等の施設開放(資料B—1—②—7)、(8) 地域貢献活動担当センター・寄附講座による活動(資料B—1—②—8)、(9) 保育園、幼稚園、公民館、老人クラブへの訪問(資料B—1—②—9)、(10) 施設・在宅への訪問診療の実施(資料B—1—②—10)などが行われている。

本学の研究内容を、多くの一般市民、開業医及び関連企業等知ってもらうための企画として、公開講座、企業及び北九州市との連携を図った産学連携、他大学との連携による4大学スクラム講座を行っている。テーマや開

催場所によって参加者の多少はあるが、概ね好評である。学外者との共同研究や連携及び質問事項等に対応するため、ホームページ上では本学の研究者総覧を示している（別添資料B-1-②-2）。また、「初級者バドミントン教室」も、地域住民の健康増進を意図した20年以上続く企画である。さらに、高校生や医療関係の学生等を対象に、模擬講義や出前講義、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定された地域高校への協力、解剖実習の見学等、学外者への教育サービスを実施している。

本学では、現役の歯科医師や歯科衛生士等を主な対象としたリカレント教育に積極的に取り組むことは、社会貢献の大きな柱と位置付けている。e-learning システムは現在公開中であり、今後も提供できる講義数を着実に増やし、多くの地域医療人が利用出来るように進める予定である。本学附属病院では、「九州歯科大学附属病院研修登録医受け入れに関する規程」、「九州歯科大学附属病院研修登録医申請要領」、「九州歯科大学附属病院研修登録歯科衛生士申請要領」及び「九州歯科大学附属病院研修登録歯科技工士申請要領」により研修登録制度を整え（別添資料B-1-②-3）、毎年70人以上受入れ、地域の歯科技術の発展に貢献している。また、歯科医師国家試験合格者の臨床力向上のため臨床研修医を毎年50人以上受入れている（別添資料B-1-②-4）。本学附属病院と地域の診療所との連携活動に関しては、病診連携数が年々増加しており、平成25年度には3,000件を超えている。さらに、図書館と体育館における学外者の利用率が高く、体育館においては年間延べ利用者数が約1,000人を超えており、本学の施設は地域社会にも広く開放されている。地域貢献関連センター・寄附講座では、それぞれの活動目的に沿って北九州地区の大学連携、産学連携、行政・歯科医師会の連携のもと、地域貢献活動を実施している。

### （1）資料B-1-②-1 公開講座

#### ① 公開講座の実施一覧

開催年度	講座名等	開催日	受講者数	周知方法	アンケート調査の有無
平成23年度	四大学スクラム講座「きょうからできる歯と口の健康づくり」	12月3・4日	47人	ホームページ（HP）、ポスター	有
	歯大祭公開講座「これからの歯の治療～顕微鏡を使った歯の治療と歯の再生～」	10月29日	100人	パンフレット、HP	無
	「初級者バドミントン教室」	3月5日・7日・9日	20人	HP、リビング北九州、市政だより	有
	小倉歯科医師会公開講座「今から始める口腔内科」	9月21日	45人	北九州歯科医師会を通じFAX	無
	市民公開講座「お口の健康とからだの健康」	7月30日	33人	HP、ポスター	有
平成24年度	四大学スクラム講座「う蝕・歯周病菌に関する最近のトピックス」	12月15日・16日	53人	HP、ポスター、歯科医師会・県関連機関へ案内	有
	小倉歯科医師会公開講座「安心安全に治療を行うために」	10月22日	70人	小倉歯科医師会会員・北九州歯科医師会へ案内	無

	歯大祭公開講座「入れ歯治療の最前線～えっ、こんなことまでできるの？最新の歯科治療を大公開～」	10月27日	72人	HP、フクオカサイエンスマンス	無
	「初級者バドミントン教室」	9月3日・5日・7日	10人	HP、市政だより、てくてく北九州、チャレンジガイド北九州	有
	創立100周年記念市民公開講座「ガッテン流！心に伝わる健康情報の極意」	10月28日	160人	HP、NHK北九州、スポットCM	無
	県立3大学連携県民公開講座「食べる、噛む、生きる～食と健康を見直して元気で長生き～」	12月8日	105人	HP、ポスター、チラシ	有
	お口の健康セミナー「高齢者の生活を支える食生活と栄養ケアについて」	2月16日	140人	HP、チラシ	有
	市民公開講座「お口の健康とからだの健康」	6月23日	97人	HP、ポスター	有
平成25年度	「初級者バドミントン教室」	9月2日・4日・6日	5人	HP、市政だより、てくてく北九州、チャレンジガイド北九州	有
	県立3大学連携県民公開講座「食べる、噛む、生きる」	10月16日	250人	HP、ポスター、チラシ	有
	小倉歯科医師会公開講座「口腔内科の概念と可能性」	10月23日	39人	小倉歯科医師会会員、北九州の歯科医師会(門司、八幡、若松、戸畑)案内	無
	歯大祭公開講座「知ってもらいたい、子どもたちの口と歯のこと～お母さま、お父さまのために～」	10月27日	70人	HP、パンフレット、チラシ	無
	四大学スクラム講座「口腔がんがふえている～お口の中にもがんはできます～」	11月2日・3日	73人	HP、ポスター、チラシ	有
	創立100周年記念公開講座「食と咀嚼～口から変わる命～」	11月24日	500人	HP、チラシ	無
	お口の健康セミナー「高齢者の生活を支援する新しい多職種連携」	2月22日	84人	HP、チラシ	有
平成26	西南女学院大学連携講座 メタボリックシンドロームの予防とは？	7月12日	72人	HP、ポスター、チラシ	有

年度	「初級者バドミントン教室」	9月1日・3日・5日	8人	HP、リビング北九州、チャレンジガイド北九州、ふくおか生涯学習ひろば、チラシ	有
	市民公開シンポジウム 「健康長寿社会を目指して」	9月13日	150人	HP、チラシ	無
	西南女学院大学連携講座「日本人で最も多い病気～高血圧の予防と治療～」	9月27日	103人	HP、ポスター、チラシ	有
	歯大祭公開講座 「生活習慣とお口の健康」	10月26日	106人	HP、パンフレット、チラシ	無
	小倉歯科医師会公開講座 「歯科材料の接着」	10月30日	50人	小倉歯科医師会会員、北九州の歯科医師会(門司、八幡、若松、戸畑)案内	無
	県立3大学連携県民公開講座 「食べる・噛む・生きる～変わりゆく家族のかたちと食育～」	11月13日	113人	HP、ポスター、チラシ	有
	四大学スクラム講座「歯周病!?歯周病によって歯が浮く??歯周病は全身に影響する??」	11月15日・16日	53人	HP、ポスター、チラシ	有
	西南女学院大学連携講座「よく噛んで食べることの大切さ」を学びませんか?」	12月6日	107人	HP、ポスター、チラシ	有
	北九州市民カレッジ 大学連携講座 「よく噛んで食べる習慣を身につけませんか?」	2月18日	20人	チラシ	有
	お口の健康セミナー「きれいで元気な高齢者になるために」	2月28日	52人	HP、チラシ	有
平成27年度	西南女学院大学連携講座「糖尿病の波濤～速すぎた食事の変化～」	6月27日	136人	HP、ポスター、チラシ	有
	西南女学院大学連携講座「残暑も乗り切れ!夏バテ知らずの食生活!～脱水・疲労注意報にご用心～」	8月29日	144人	HP、ポスター、チラシ	有
	「初級者バドミントン教室」	8月31日・9月2日・9月4日	8人	HP、リビング北九州、チャレンジガイド北九州、チラシ	有
	西南女学院大学連携講座「油(脂)と上手につき合うには?～聴いて訊いてディスカッション～」	10月17日	107人	HP、ポスター、チラシ	有

歯大祭公開講座 「健康は口から!!!」	10月25日	103人	HP、パンフレット、チラシ、サイエンスマンズ、毎日新聞(学びシティ)	無
四大学スクラム講座「食べて脳トレ～健康と幸福のキーワードは健口と口福～」	11月14日・15日	56人	HP、ポスター、チラシ	有
西南女学院大学連携講座 「～歯・口の健康と全身の保健康を守るために～第2弾」	12月5日	127人	HP、ポスター、チラシ	有
“今から”を充実した時間にするために「よく噛んで食べて、イキイキとした生活を続けていきませんか？」	2月4日	20人	チラシ	無
小倉歯科医師会公開講座 「失敗から学ぶ安心・安全なインプラント治療」	2月26日	59人	小倉歯科医師会会員、北九州の歯科医師会(門司、八幡、若松、戸畑)案内	無
大型連携型ふくおか版CCRC「生涯活躍のまち」構築に向けて～高齢者のQOL「生活の質の向上」を目指して～	2月27日	33人	HP、チラシ	無
お口の健康セミナー「きれいで元気に長生きするために」	2月27日	51人	HP、チラシ	有

## ② 公開講座受講者アンケート調査結果

実施年度	「お口の健康セミナー」アンケート調査内容			
平成24年度	今後も参加したいか			
	ぜひ参加したい	次回は参加したい	どちらとも言えない	無回答
	95.3%	0%	4.7%	0%
平成25年度	今後も参加したいか			
	ぜひ参加したい	次回は参加したい	どちらとも言えない	無回答
	53%	0%	9%	0%
平成26年度	今後も参加したいか			
	ぜひ参加したい	次回は参加したい	どちらとも言えない	無回答
	78%	0%	19%	3%
平成27年度	今後も参加したいか			
	ぜひ参加したい	次回は参加したい	どちらとも言えない	無回答
	74.4%	0%	17.9%	7.7%

実施年度	市民公開講座 「お口の健康とからだの健康」 アンケート調査内容				
平成 23 年度	全体の満足度について				
	非常に満足した	ある程度満足した	あまり満足できなかった	まったく満足できなかった	無回答
	15 人	7 人	1 人	0 人	3 人
平成 24 年度	全体の満足度について				
	非常に満足した	ある程度満足した	あまり満足できなかった	まったく満足できなかった	無回答
	51 人	33 人	3 人	2 人	0 人
実施年度	「県立 3 大学連携県民公開講座」 アンケート調査内容				
平成 24 年度	講演 II				
	大変興味を持った	少し興味を持った	特に興味をひかれるものはなかった	どれでもない	
	66. 7%	30. 3%	0%	3. 0%	
	公開討論				
	大変興味を持った	少し興味を持った	特に興味をひかれるものはなかった	どれでもない	
	59. 4%	40. 6%	0%	0%	
平成 25 年度	講演 I				
	大変興味を持った	少し興味を持った	特に興味をひかれるものはなかった	どれでもない	
	75. 0%	21. 9%	3. 1%	0. 0%	
	公開討論				
	大変興味を持った	少し興味を持った	特に興味をひかれるものはなかった	どれでもない	
	59. 4%	40. 6%	0%	0%	
平成 26 年度	講演				
	大変参考になった	少し参考になった	特に参考になる内容はなかった	どれでもない	
	57. 4%	42. 6%	0%	0%	
	公開討論				
	大変参考になった	少し参考になった	特に参考になる内容はなかった	どれでもない	
	59. 0%	35. 9%	0%	5. 1%	
平成 27 年度	実施なし				
実施年度	「初級者バドミントン教室」 アンケート調査内容				
平成 22 年度	今回の教室は楽しかったですか				
	楽しかった	どちらかといえば楽しかった	どちらともいえない	どちらかといえば楽しくなかった	楽しくなかった

	95.0%	5.0%	0%	0%	0%
	教室参加の満足度を教えてください				
	満足した	どちらかといえば満足した	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である
	95.0%	5.0%	0%	0%	0%
平成 23 年度	今回の教室は楽しかったですか				
	楽しかった	どちらかといえば楽しかった	どちらともいえない	どちらかといえば楽しくなかった	楽しくなかった
	89.5%	10.5%	0%	0%	0%
	教室参加の満足度を教えてください				
	満足した	どちらかといえば満足した	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である
	73.7%	26.3%	0%	0%	0%
平成 24 年度	今回の教室は楽しかったですか				
	楽しかった	どちらかといえば楽しかった	どちらともいえない	どちらかといえば楽しくなかった	楽しくなかった
	90.0%	10.0%	0%	0%	0%
	教室参加の満足度を教えてください				
	満足した	どちらかといえば満足した	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である
	95.0%	5.0%	0%	0%	0%
平成 25 年度	今回の教室は楽しかったですか				
	楽しかった	どちらかといえば楽しかった	どちらともいえない	どちらかといえば楽しくなかった	楽しくなかった
	100%	0%	0%	0%	0%
	教室参加の満足度を教えてください				
	満足した	どちらかといえば満足した	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である
	100%	0%	0%	0%	0%
平成 26 年度	今回の教室は楽しかったですか				
	楽しかった	どちらかといえば楽しかった	どちらともいえない	どちらかといえば楽しくなかった	楽しくなかった
	100%	0%	0%	0%	0%
	教室参加の満足度を教えてください				
	満足した	どちらかといえば満足した	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である
	100%	0%	0%	0%	0%
平成 27 年度	今回の教室は楽しかったですか				

	楽しかった	どちらかといえば 楽しかった	どちらともいえな い	どちらかといえば 楽しくなかった	楽しくなか った
	71%	14%	14%	0%	0%
教室参加の満足度を教えてください					
	満足した	どちらかといえば 満足した	どちらともいえな い	どちらかといえば 不満である	不満である
	86%	14%	0%	0%	0%

## (2) 資料B-1-②-2 企業、大学及び行政との連携

## ① 産学連携フェア

開催年度	本学の出展内容	出展機関 数	セミナー 開催数	参加延 べ人数	アンケート調査結果
平成 23 年度	歯科用インプラントの術前CT検査に 応用可能な画像解析ソフトウェアの試 作品を提示し、実際に使用してもら うことで操作性の問題点を見出すべく出 品	76	23	8,109	参加者の 10%が充分満 足、59%が満足と回答
平成 24 年度	インプラント治療におけるトラブルの 減少や患者の経済的負担の軽減等を図 ることを目的として開発された術前検 証システムを紹介	43	26	8,076	参加者の 7%が充分満 足、61%が満足と回答
平成 25 年度	チェアサイドでの高精度な診断を可能 にする試作高解像度歯科治療用内視鏡 開発について展示	51	33	7,911	参加者の 10%が充分満 足、66%が満足と回答
平成 26 年度	「マウスピース型の睡眠時無呼吸症候 群治療装置」について、新技術説明会 で講演を行った。	42	35	7,712	参加者の 17%が充分満 足、64%が満足と回答
平成 27 年度	「歯科治療用新規内視鏡の開発」につ いて、新技術説明会で講演を行った。	46	30	6,751	参加者の 14%が充分満 足、62%が満足と回答

## ② 4大学スクラム講座

開催年度	本学の提供講座内容	全体受講者 数 (申込数)	アンケート調査結果					
			満足	やや満足	普通	やや不 満足	不満足	その他
平成 23 年度	きょうからできる歯 と口の健康づくり	47 人 (70 人)	66%	22%	10%	1%	0%	1%
平成 24 年度	う蝕・歯周病菌に関す る最近のトピックス	61 人 (82 人)	55%	24%	14%	6%	0%	1%
平成 25 年度	口腔がんがふえてい	73 人 (99 人)	62%	15%	11%	8%	1%	4%

	る～お口の中にもがんはできます～								
平成26年度	歯周病!?歯周病によって歯が浮く??歯周病は全身に影響する??	53人(68人)	59%	25%	9%	1%	0%	5%	
平成27年度	食べて脳トレ～健康と幸福のキーワードは健口と口福～	56人(64人)	73%	18%	4%	4%	0%	0%	

## (3) 資料B-1-②-3 大学紹介(オープンキャンパス)、模擬講義、出前講義等の実施状況

## ① オープンキャンパス

開催年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
参加者数 (申込者数)	337人 337(人)	409人 373(人)	409人 406(人)	431人 413(人)	466人 446(人)

## ② オープンキャンパス来場者満足度アンケート調査結果

開催年度	良かった	どちらかといえ ば良かった	どちらともい えない	どちらかとい えば良くな かった	良くな かった
平成23年度	91.7%	6.6%	1.8%	0%	0%
平成24年度	92.0%	8.0%	0%	0%	0%
平成25年度	94.8%	4.3%	0.9%	0%	0%
平成26年度	90.2%	9.8%	0%	0%	0%
平成27年度	91.2%	8.1%	0.7%	0%	0%

## ③ 模擬講義、出前講義、見学生受入れ、高大連携教育(スーパーサイエンスハイスクール対応含む)

OC: オープンキャンパス、SSH: スーパーサイエンスハイスクール

開催年度	講義名等	開催日	受講者数	周知及び選択方法	アンケート調査
平成23年度	模擬講義(OC)「バイオロジーの歯科医療への応用」	8月5日	162人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	模擬講義(OC)「歯科治療は恐くない」	8月5日	139人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(修猷館高校)「う蝕細菌の分子生物学」	11月3日	20人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(下関西高校) (キャリアセミナー職業別講師「歯科医」)	11月11日	17人	高校からの依頼	有

	出前講義(門司学園高校)「摂食・嚥下障害を理解するための基礎知識」	2月21日	28人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	見学生(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
	SSH対応(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
平成24年度	模擬講義(OC)「口から分かる前身の健康～世界一受けたい授業より～」	8月3日	146人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	模擬講義(OC)「歯の治療～現在と未来～」	8月3日	167人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	出前講義(岩田高校)「脳を鍛える食べ方があります」	6月22日	13人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(東明館高校)「医療コミュニケーションスキルの重要性」	8月21日	60人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(佐賀西高校)「舌から全身の健康状態がわかります」	10月22日	28人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(若松商業高校)「歯科衛生士と歯科助手のちがいは」	11月8日	8人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(下関西高校) (キャリアセミナー職業別講師「歯科医」)	11月9日	21人	高校からの依頼	有
	見学生(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
	SSH対応(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
平成25年度	模擬講義(OC)「あなたの食生活、それで大丈夫ですか?～歯・口と身体の健康を保つために～」	8月2日	140人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	模擬講義(OC)「口の病気と全身の健康」	8月2日	169人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	出前講義(佐賀西高校)「医療系大学における研究最前線～身近な病気である歯周病の恐ろしさ～」	8月5日	19人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(東明館高校)「医療コミュニケーションスキルの重要性」	8月23日	98人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(京都高校)「医療系大学における研究最前線～身近な病気である歯周病の恐ろしさ～」	9月13日	24人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(西南女学院中学・高校)「口腔医としての歯科」	10月23日	8人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(明治学園高校)「口からはじまる健康生活」	10月24日	235人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
出前講義(新宮高校)「脳を鍛える食べ方があります」	10月29日	35人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有	

	出前講義(北筑高校)「医療系大学における研究最前線～生命の神秘－細胞外マトリックスの役割～」	11月5日	22人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(下関西高校)(キャリアセミナー職業別講師「歯科医」)	11月8日	19人	高校からの依頼	有
	出前講義(明治学園中学)「医療系大学における研究最前線～生命の神秘－細胞外マトリックスの役割～」	2月12日	24人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	見学生(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
	SSH対応(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
	SSH対応(明治学園高校 歯科疫学実習)	通年	6人	高校からの依頼	無
平成26年度	模擬講義(OC)「口の中に”がん”ができるって知ってますか」	8月8日	160人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	模擬講義(OC)「歯周病が全身に悪影響をあたえる？」	8月8日	109人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	出前講義(佐賀西高校)「外国へ行こう！歯科医療従事者として国際協力」	8月4日	14人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(福岡雙葉高校)「口の中の病気を診る－口腔を科学する－」	9月25日	96人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(新宮高校)「『のどの渇き』のメカニズムを探る」	10月28日	21人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(京都高校)「脳を鍛える食べ方があります」	10月30日	33人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(下関西高校)(キャリアセミナー職業別講師「歯科医」)	11月7日	14人	高校からの依頼	有
	見学生(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
	SSH対応(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
	課題研究(明治学園)「歯科疫学実習」	通年	18人	高校からの依頼	無
平成27年度	模擬講義(OC)「口腔のがん－口腔とがん」	8月7日	173人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	模擬講義(OC)「歯を失ったときどうする！？－インプラントから再生治療まで、歯科はてつ治療の最前線－」	8月7日	169人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	無
	出前講義(佐賀西高校)「医療系大学における研究最前線～生命の神秘－細胞外マトリックスの役割～」	8月3日	27人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
	出前講義(久留米高校)「脳を鍛える食べ方があります」	12月5日	46人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有

出前講義(防府高校)「ヒトはどうやって飲んだり食べたりしているのだろうか? 食べられなくなったらどうすればいいのだろうか?」	1月18日	36人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
出前講義(八幡高校)「味わうって何だろう?—味覚情報の生理学的意義—」	2月5日	78人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
出前講義(清心女子中学) (大学における歯学教育について～歯科医師・歯科衛生士をご存知ですか?～)	3月9日	320人	案内文郵送、本学HP、受験情報誌等	有
見学生(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
SSH対応(高校・・・解剖実習)			高校からの依頼	無
課題研究(明治学園)「歯科疫学実習」	通年	4人	高校からの依頼	無

## (4) 資料B-1-②-4 リカレント教育実施状況

## ① e-learning システム「Q-shidai ゼミ」

年度	提供番組	訪問者数 (受講者数)	周知方法	平均満足度 (5点満点中)	アンケート調査の有無
	内容				
平成23年度	・口腔ケア(全7回) ・救急蘇生(全6回) ・インプラント(全1回) ・予防歯科(全1回)	2,146(65)	本学HP	—	—
平成24年度		2,881(59)	本学HP	4.5	有
平成25年度		2,649(62)	本学HP	4.3	有
平成26年度		3,076(23)	本学HP	4.3	有
平成27年度		1,854(17)	本学HP	4.0	有

## ② 研修登録医、研修登録歯科衛生士及び研修登録歯科技工士の受入者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
研修登録医	75人	97人	101人	107人	105人	117人
研修登録 歯科衛生士	5人	5人	5人	7人	6人	3人
研修登録 歯科技工士	0人	0人	1人	1人	1人	2人

## (5) 資料B-1-②-5 臨床研修歯科医師の受入数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
受入人数	85人	77人	59人	72人	59人	54人

## (6) 資料B-1-②-6 病診連携の実施

## ① 病診連携の稼働率

年度	初診料算定患者数	病診連携数	稼働率	周知方法
平成23年度	10,726(4,161)	2,540	23.7	病院HP
平成24年度	10,358(4,159)	2,731	26.4	病院HP、市内歯科医師会への説明・情報提供
平成25年度	10,753(4,151)	3,093	28.8	病院HP、市内歯科医師会への説明・情報提供
平成26年度	10,779(4,001)	3,383	31.4	病院HP、紹介元名等を印字した診療情報提供書の送付
平成27年度	10,789(4,122)	3,801	35.2	病院HP

- ・( )内は紹介患者数
- ・病診連携数はFAXで受信した診療情報提供書の枚数

## (7) 資料B-1-②-7 本学施設の学外者利用状況

施設名		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
教育施設	図書館	学外利用者数	830人	584人	641人	463人	434人
		学外者文献依頼件数	326件	322件	220件	215件	250件
一般施設	体育館	31件(1050人)	32件(1250人)	31件(1050人)	31件(1050人)	31件(1050人)	
	講義室・小講義室	29件	15件	28件	34件	26件	
	チュートリアル演習室	6件	1件	0件	5件	0件	
	大会議室・小会議室	10件	1件	7件	1件	3件	
動物実験施設	講堂	5件	4件	6件	6件	8件	
	食堂・喫茶室	8件	5件	4件	4件	5件	
	附属病院会議室	1件	0件	0件	0件	0件	
	見学者	0件	0件	0件	0件	0件	
動物実験施設	学外利用者	0件	0件	0件	0件	0件	
	計	0件	0件	0件	0件	0件	

## (8) 資料B—1—②—8 地域貢献関連センター・寄附講座の活動実績

センター・寄附講座	活動実績
<p>北九州地区大学連携教育研究センター (文部科学省大学間連携共同教育推進事業地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト、平成 24 年度採択、代表校：九州歯科大学)</p>	<p>24 年度：センターの開設 25 年度：北九州地区 4 大学（九州歯科大学、産業医科大学、九州工業大学、北九州市立大学）間での単位互換協定の締結 26 年度：単位互換科目の開講（履修者数：283 人）、市民公開シンポジウムの実施（1 回） 27 年度：単位互換科目の開講（履修者数：251 人）、市民公開シンポジウムの実施（1 回）、国際シンポジウムの実施（1 回）</p>
<p>オーラルバイオ研究センター (九州工業大学と歯工学連携大学院を開設する協定を締結した。関連産業分野で必要とされる優れた専門技術者および研究開発者の人材を育成している。)</p>	<p>23 年度：歯工学連携講演会（第 10—14 回）、歯工学連携科目の履修（11 名）、市民公開講座の実施（1 回）、課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業採択（1 件） 24 年度：歯工学連携講演会（第 15—19 回）、歯工学連携科目の履修（9 名） 25 年度：歯工学連携講演会（第 20—27 回）、歯工学連携科目の履修（13 名） 26 年度：歯工学連携講演会（第 28—33 回）、歯工学連携科目の履修（17 名） 27 年度：歯工学連携講演会（第 34—39 回）、歯工学連携科目の履修（19 名）</p>
<p>まちなか ESD センター (文部科学省大学間連携共同教育推進事業：まちなか ESD センターを核とした実践的人材育成、平成 24 年度採択、代表校：北九州市立大学)</p>	<p>24 年度：センターの開設 25 年度：本学プロジェクトとして被災地支援サポーター育成学の開講（受講者数：30 人） 26 年度：北九州地区 6 大学（北九州市立大学、九州歯科大学、九州共立大学、九州女子大学、九州工業大学、九州栄養福祉大学）間での単位互換協定の締結、被災地支援サポーター育成学の開講（受講者数：31 人） 27 年度：被災地支援サポーター育成学の開講（受講者数：35 人）</p>
<p>寄附講座（高齢者支援学） (ウチヤマホールディングス及び北九州産業学術推進機構との間で、医療・介護分野における連携協力協定を締結した。ウチヤマホールディングスより奨学寄附金の提供を受けて本センターを設置。)</p>	<p>27 年度：高齢者の QOL（生活の質）の向上につながるような人材育成や研究展開を図り、その成果を地域に還元することを目指し、寄附講座を開設。専任教員 1 名設置、客員教授 2 名、客員准教授 1 名配置、講座設置記念セミナー（1 回）、さわやかアカデミー授業（7 回）、寄附元企業の口腔ケアに関する新人研修（1 回）、デザイン思考ワークショップ（3 回）、寄附元企業の高齢者施設で口腔ケアに関するラウンド（12 施設）、寄附元企業の高齢者施設における口腔保健学科 4 年次生の臨地実習の開始（6 日間×25 名）、共同研究の開始（3 件）</p>
<p>口腔保健・健康長寿推進センター (平成 28 年度福岡県重点施策により、本センターを設置。)</p>	<p>27 年度：要介護高齢者に対する歯科治療並びに口腔ケアが行える人材の育成事業を歯科医師及び歯科衛生士に対して展開することを目的とする口腔保健・健康長寿推進センターの設置検討委員会の開催（3 月 22 日）（平成 28 年 4 月 1 日に附属病院 6 階に開設）</p>

## (9) 資料B—1—②—9 保育園、幼稚園、公民館、老人クラブへの訪問

## ①保育園、幼稚園への訪問（講演および歯科相談）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
訪問件数	5 件	5 件	3 件
参加者数	317 人	377 人	72 人
満足度 (5 段階評価)	4.6	4.7	4.4

## ②公民館、老人クラブ等への訪問（講演および歯科相談）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
訪問件数	9 回	9 回	7 回
参加者数	173 人	244 人	216 人
満足度 (5 段階評価)	4.6	4.7	4.9

## (10) 資料B—1—②—10 訪問診療の実施

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
訪問回数	71 回	77 回	76 回	65 回	62 回
患者数	223 人	251 人	325 人	802 人	246 人

別添資料B—1—②—1 4 大学スクラム講座関係資料(平成 23～27 年度) (出典：事務局資料)

別添資料B—1—②—2 九州歯科大学研究者総覧, <http://www.kyu-dent.ac.jp/research/researcher>

別添資料B—1—②—3 九州歯科大学附属病院研修登録受け入れに関する規程等 (出典：事務局資料)

- ・九州歯科大学附属病院研修登録医受け入れに関する規程
- ・九州歯科大学附属病院研修登録医申請要領
- ・九州歯科大学附属病院研修登録歯科衛生士申請要領
- ・九州歯科大学附属病院研修登録歯科技工士申請要領

別添資料B—1—②—4 平成 27 年度九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修概要,

<http://www.kyu-dent.ac.jp/hospital/files/uploads/h27gaiyou.pdf>

## 【分析結果とその根拠理由】

本学の地域貢献活動については、九州歯科大学憲章、本学の学則や中期計画に基づき多様なプログラムを実施している。教育・研究活動の成果を学外へ向けて発信することで地域社会の発展に寄与することを目指し、計画的に開催している公開講座、産学連携、4 大学スクラム講座、オープンキャンパス、高大接続教育、模擬講義や出前講義には多くの参加者を得ている。また、リカレント教育、歯科医師臨床研修に係る教育、施設開放、地域貢献関連センター・寄附講座による活動、幼稚園・保育園・公民館・老人クラブへの訪問、施設・在宅への訪問診療の実施等を企画・立案し、積極的に活動を展開している。以上のことから、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断した。

**観点B—1—③： 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。**

**【観点に係る状況】**

本学が行っている公開講座の受講者数及びアンケート調査結果を資料B—1—②—1に、産学連携と4大学スクラム講座への参加数とアンケート調査結果を資料B—1—②—2に、オープンキャンパスや模擬講義・出前講義等の参加者数及びアンケート調査結果を資料B—1—②—3に、リカレント教育としてのe-learningシステム「Q-shidai ゼミ」と研修登録制度の利用者数及びアンケート調査結果を資料B—1—②—4に、歯科医師臨床研修の受入数を資料B—1—②—5に、病診連携の稼働率を資料B—1—②—6に、本学施設の学外利用者数を資料B—1—②—7に、地域貢献関連センター・寄附講座の取り組みを資料B—1—②—8に、保育園、幼稚園、公民館、老人クラブへの訪問について資料B—1—②—9に、施設・在宅への訪問診療の実施状況について資料B—1—②—10にそれぞれ示した。参加者や利用者の数は企画や取組によって異なるが、概ね多くの参加者を得ることができた。また、サービスの利用者に対するアンケート調査より、その満足度が高いことが示された。

**【分析結果とその根拠理由】**

本学が企画及び参加した地域貢献等に関する各種活動について、多くの企画において参加及び利用者の数は確保されている。また、すべての企画ではないが、アンケートによる満足度調査を行ったところ、全体的に概ね好評であった。オープンキャンパスも充実しており、図書館を初めとして、学外の利用者が増加している。オープンキャンパスでは毎年参加者が増加しており、来場者への調査結果より90%以上の満足度を維持している。地域住民向けの公開講座も地域の大学、歯科医師会および行政機関と共同で実施し、高い満足度を得ている。センター・寄附講座による活動により、北九州地域の大学、企業、行政と連携し、口腔保健の向上に資する新規的な取り組みを行っている。

これらのことから、活動の参加者は確保され、成果は得られていると判断した。

**観点B—1—④： 改善のための取組が行われているか。**

**【観点に係る状況】**

本学の社会貢献については、本学の自己評価を付して提出する毎年度の業務実績評価を基に、中期計画の達成状況について「福岡県公立大学法人評価委員会」（以下、「評価委員会」と称する）（別添資料9—3—②—2）により評価が行われている。その社会貢献項目に対する評価結果は5段階評価で、平成23～26年度すべて4（順調に進んでいる）の評価を受けている（別添資料B—1—④—1～—3, 8—1—①—11）。これらの評価は、本学の教育研究協議会および担当副学長のもと、5つの地域貢献関連センター・寄附講座によって検討され、取組の改善や新たな社会のニーズの掘り起こしを行い、地域社会への貢献拡大を推し進めている。これらの推進や改善が学内に周知徹底され、また個人の地域社会への貢献の意識を高めるため、学長は全学説明会において全教職員に対し説明と協力の呼び掛けを随時行い、また教員については個人業績評価において「社会貢献活動」の項目を設定し、年度ごとの点数分布状況を把握し、それらの結果を各教員にフィードバックすることによって改善に努めている（資料B—1—④—1）。平均点は平成25年度、26年度ともに16点を超え、平成23、24年度よりも高くなっている傾向にある。一方で、職位という観点から致し方ないとはいえ、社会貢献活動に参加しておらず、得点が無い教員も一定の割合で認められる。この点については課題として残された。

それぞれの地域貢献に関する取組については、担当部署において利用状況やアンケート調査結果等を基に、改

善に向けて取り組んでいる。

資料B-1-④-1 教員個人業績評価における「社会貢献活動」への申告点数分布

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
教員総数	109 人	109 人	98 人	103 人
平均点	15.4	14.4	16.1	16.3
40 点以上	17%	13%	11%	14%
10～40 点未満	19%	24%	32%	30%
10 点未満	39%	47%	49%	39%
0 点	25%	16%	8%	17%

別添資料9-3-②-2 福岡県公立大学法人評価委員会委員名簿,  
[http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/198488\\_51616251\\_misc.pdf](http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/198488_51616251_misc.pdf)  
 別添資料B-1-④-1 平成 23 年度業務実績評価結果,  
<https://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/23nendohyouka.pdf>  
 別添資料B-1-④-2 平成 24 年度業務実績評価結果,  
<https://www.kyu-dent.ac.jp/docs/about/corporation/24nendohyouka.pdf>  
 別添資料B-1-④-3 平成 25 年度業務実績評価結果,  
<https://www.kyu-dent.ac.jp/files/uploads/H25hyouka.pdf>  
 別添資料8-1-①-1 平成 26 年度業務実績評価結果,  
<https://www.kyu-dent.ac.jp/files/uploads/H26hyouka.pdf>

#### 【分析結果とその根拠理由】

本学の中期計画に示された「社会貢献」に対しては、「評価委員会」によって年度ごとに計画達成状況について評価が行われ、学内では「教育研究協議会」において副学長を中心に改善方法や今後の方針等が審議されている。これらの評価結果や検討内容に基づき、また満足度に関するアンケート調査や実施状況等の分析により、新しい社会のニーズの掘り起こしとプログラムの改善への取組が具体的に推し進められている。その計画と改善については学長が全学説明会を通して随時全職員に説明し、さらに、活動の中核を担う教員に対しては、個人業績評価において「社会貢献活動」項目が設定され、点数化による評価を行うことにより、教員一人一人の社会貢献への参加意識を高めることに努めている。大学の施設の利用や研修登録医ならびに臨床研修などの制度については、それぞれの部署において、実施状況を基に改善を図っている。これらのことから、改善のための取組が行われていると判断した。

#### (2) 目的の達成状況の判断

本学では、九州歯科大学憲章の中に基本理念として「地域医療の中核的役割を果たす」ことが掲げられ、また同憲章の教育研究目標に「多職種と連携し、歯科保健医療を通じて地域社会に貢献することができる歯科医療人を育成する」と定められている。

本学は「地域医療の中核的な役割」を果たすという理念のもと、地域社会に貢献することを目標に、主に中期計画により基本的な戦略を策定している。この基本姿勢に基づき、公開講座、産学連携、公開講座、他大学との連携、高大連携教育等の実施、リカレント教育、歯科医師臨床研修に係る教育、地域住民への健康増進啓発及び病診連携の実施、図書館、体育館及び講堂等の施設開放、地域貢献活動担当センター・寄附講座による活動を企画・実施した。これらのプログラムの参加者数や参加者を対象に行ったアンケート調査の結果、及び実施状況等から判断して、本学の目的の達成状況が良好である。

### (3) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

- 本学は「地域医療の中核的役割を果たす」という理念のもと、歯学部および附属病院に加えて、地域貢献関連センター・寄附講座を5つ設置し、それぞれが地域の大学、企業、行政、歯科医師会と連携した特色のある取り組みを行っている。
- 本学は出前講義や高大連携教育を通して地域の高校と教育連携し、さらに公開講座や幼稚園、保育園、老人クラブ等の訪問により地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動を行い、高い満足度を得ている。
- リカレント教育では、地域の歯科医師、歯科衛生士をはじめとする歯科医療関係者に対し、幅広い先進歯科医療情報の提供を可能としており、参加者数も増加傾向にある。
- 教員の個人業績評価に「社会貢献活動」項目を設定し、その活動を評価することにより地域貢献への参加意識を高めることに努めている。

#### 【改善を要する点】

- 可能な限り、アンケート調査にて本学の地域貢献活動を評価しているが、一部調査できていない項目もあることから、今後の実施企画に当たってはより広くアンケート調査など意見の収集や満足度の把握を行う必要がある。
- 大学のブランドイメージを広報する観点からも、教員の地域貢献活動への参加意識と実績の更なる向上に努める必要がある。